

シーン2



日曜の昼 夫の不満

お互いが相手に気づいてあげるといふ気配りが大切なんだと思いますよ。

H：気づいていながら「面倒」というのも男の本音なんじゃない？

U：まったく気づかない人もいます。意識の問題なんだけど、「熟年離婚」なんてならないように、心掛けたいよね。

H：家事や育児は、肉体的にだけでなく、精神的にも重労働だと思いますよ。しかし、誰でもできる仕事です。いろいろと考えるだけでも楽しく、しかも、すぐに反応がある、やりがいのある仕事です。やったことがない人は、今日からでも、やってみたらどうでしょう。

● シーン2／日曜の昼 夫の不満

お休みの日、いつもは何もしなくていい夫が、妻への感謝の気持ちから、洗濯をしてくれることになりました。しかし、せっかくやる気になって、洗濯をし、干してくれています。妻が洗濯の仕方や干し方について、いろいろ注文をつけるのでやる気もなくしてしまつた夫。

感謝の気持ちの行動が、逆に叱られたのでは放り出したくなるのも無理ありません。心ない一言が、知らず知らずに相手を傷つけることもあります。お互いの気持ちを大事にし、協力して家事を行いたいものです。

● 編集委員の意見

U：洗濯機も機能がまちまちなので、使い慣れていないとわからないことが多いんですね。洗剤の量などいろいろな点があるみたいですから…。

K：洗うものはきちんと分けて洗濯するのが原則。ジーンズ・くつ下などと下着は、汚れが違うので分けて、下着はネットに入れたりしますよね。

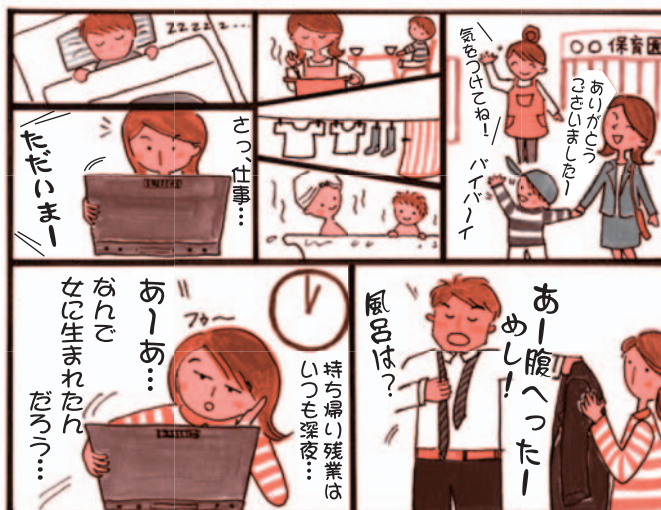
F：夫のものと子どものものを分けて洗うのは、子どものものは抗アレルギー用洗剤を入れて洗うからなんです。

U：干し方についても細かいことを、女性は言いますよね。反対に、しわがあっても、まったく気にしない女性もいますからね。

U：いろいろな人がいるので、洗い方、干し方もいろいろあるということです。

K：任せられない女性も多いのではないかと思いますよ。夫や子どもが家事を手伝おうとしても細かいことが気になり、いちいち指示しながらやってもうらうより、自分でやったほうが早い。だから、家事はちっとも減らない。妻の仕事も少しも楽にならない。そんな感じじゃないかと思っています。

シーン3



平日の夜 妻の不満

H：「二度手間になるから、手伝わないで」と言われたことがあるんですが、もつと言いつつ、教え方があったのでは、と思いますね。

K：家事に慣れていない夫は、子どもと一緒に、「ほめて育てる」というのはどうでしょう。

U：要するに、妻が洗濯担当だと決めてしまっていることが問題なのではないですか。どちらがやるにしても、時間的にやれる人がやればよい、できないければ教えてあげればよいんじゃないですか。

U：男性も、教えてあげればキッチンとやるんじゃないですか？ キッチンとやって、ほめられれば嬉しいはず。そうするとやる気も出て、他の家事も挑戦してくれたりして（笑）。